

ライアン・マキナニー

VISA CEO

決済の技術革新を主導する フィンテック・リーダー

世界のカード市場で 圧倒的なトップシェアを誇る

世界最大規模の決済ネットワークを提供する米VISA（ビザ）。クレジットカードの決済額では、競合するマスターカードやアメリカン・エクスプレスなどを押さえ、世界シェアトップの地位を確立している。2008年の上場以来、時価総額は約17倍にまで成長し、米国市場の時価総額ランキングでは20位前後に位置する。その巨大企業の舵取りを担うのが2023年にCEOに就任したライアン・マキナニー氏だ。



サービス提供国・地域は200以上に上る

1975年、米国ミシガン州で生まれた同氏は、米ノートルダム大学でファイナンスを専攻し、1997年に金融の理学士号を取得。大学卒業後はマッキンゼー・アンド・カンパニーでリテールバンキングや決済分野の経験を積み、その後JPモルガン・チェースに移籍。同社初のモバイルバンキングアプリの立ち上げを主導し、2010年には30代の若さで7万5,000人以上の従業員を抱えるコンシューマーバンキング部門のCEOにまで上り詰めた。決済業務への卓越した知識やリーダーシップが評価され、2013年にビザが社長として招聘。前CEOアルフレッド・ケリー氏の後継者として2023年に同社CEOに就任した。

フィンテックに積極投資し 新たな成長の原動力に

「ビザは本質的にはテクノロジーの会社だ」。2010年代半ばから年次報告書などでたびたび発信されてきたこの言葉は、同社が単なるカード決済事業者ではなく、テクノロジー企業への変革を進めるという決意の表れだ。CEO就任後のマキナニー氏は、フィンテック企業との業務提携やM&Aなどを通じて、この戦略の方針をさらに加速させた。

同氏が現在力を入れる事業が、フィンテック企業と銀行が連携しデータや機能を活用する「オープンバンキング」と、仮想通貨やブロックチェーンのインフラ構築だ。「世界中の人々が安全かつ簡単に、支払いのやり取りができる金融サービスの仕組みを作る」という“金融包摂”の推進を使命に、フィンテックの進化を“自社の成長エンジン”として、貪欲に取り入れる姿勢を見せる。

マキナニー氏のリーダーシップの下、ビザは「世界の決済インフラを支えるテクノロジー企業」に変貌しつつあると言えるだろう。同氏は米FinTech Magazineによる「Top 100 Leaders in Fintech for 2025」の第一位にも選出されている。



2026年のダボス会議に出席したマキナニー氏（右から2人目）

写真：ロイター／アフロ、World Economic Forum/Photoshot／アフロ

Profile らいあん・まきにー 1975年米国ミシガン州生まれ、家族はアイルランド系のルーツを持つ。JPモルガン・チェースなどを経て、2013年にVISA入社。社長として、世界の200カ国・地域以上の事業を統括する。決済業界での長年のキャリアと深い専門知識が評価され、2023年に同社CEO就任。前CEOケリー氏の技術革新路線を受け継ぐ。

主な参考文献 日本経済新聞、日経クロステック、FinTech Magazine、VISA年次報告書など